

＜日本史探究⑧＞ 弥生時代② 教科書: P.14~P.15

④ 水稻耕作の内容

① 弥生時代前期は、水はけの悪い低湿地ていしつちにつくられた(23.)が中心で、生産性は低かった。中・後期になると、灌漑・排水用の水路を設けた生産性の高い(24.)がつくられるようになった。

(1) 弥生時代前期から中期・後期にかけて水田はどうなった?

() → ()

② 耕作用の農具は(25.)の鍬や鋤が用いられ、(26.)で粒を水田に直接播き、稻が実ると(27.)で(28.)を行った。

※(26.): 田植えをせずに直接水田に種子[種粒]をまく方法。

(1) 弥生時代前期、農耕道具の原料は主に何だったか? ()

(2) 次の農具の名称を答えよう。(④はその使用例)



③ 木製農具の製作には(29.)や斧・鎌・刀子[小刀]などの(30.)工具が使われた。後期には刃先に(31.)をつけた鍬や鋤、(32.)などの(33.)が使われるようになり、生産性を高めた。32は収穫の際の(34.)で使われた。

(1) 木製農具の製作に何が使われたか? 2つ答えよう。

()・()の工具

(2) 弥生後期には農耕道具に何が使われるようになった? ()

④ 収穫された稻は掘立柱の(35.)や貯蔵穴に蓄えられ、食べるときには(36.)と(37.)を使って脱穀した。



(1) 収穫された稻はどこに保存されたか? ()

(2) 弥生時代、穀物の脱穀に使われたのは? ()と()